

第48回佐賀県人権・同和教育研究大会 全体会 特集

8月7日(火)、佐賀市文化会館大ホールにて、第48回佐賀県人権・同和教育研究大会全体会を開催しました。

猛暑の中、1127名の社会教育・学校教育関係者等が集い、共に学びました。

開会行事では、主催者挨拶や大会基調提案が行われ、その後、京都府立高校教員の土肥いつきさんによる『「ありのままのわたしを生きる」ために』と題した講演を実施し、ご自身の体験などを交えたわかりやすい話は、参加者からも好評を博しました。

以下、参加者からの感想を抜粋して掲載します。

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 研究調査棟内

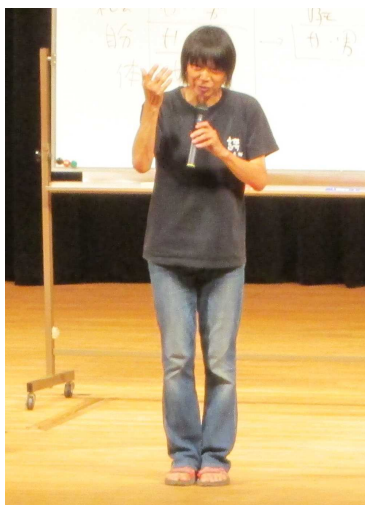
TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

「ありのままのわたしを生きる」ために

参加者アンケート(一部抜粋)

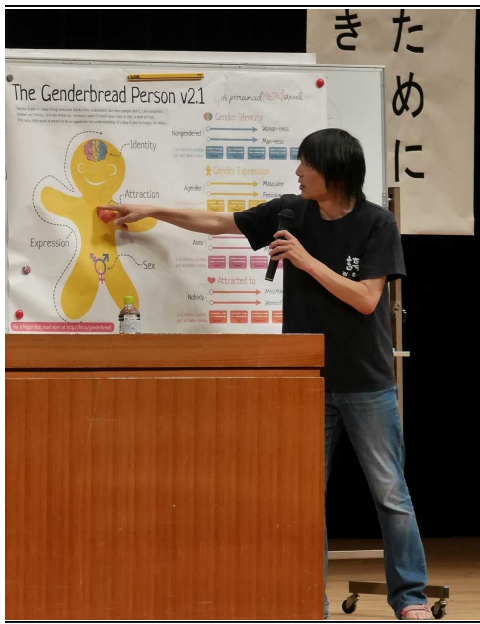
○LGBTという言葉が耳によく響くが、どういふ方なのかイメージがわからなかったが、今日の講演会を聴いて、どういふことか少しイメージができ、土肥さんのように心と体の性が一致しないことなのかと実感できました。自らの違和感を抑え込んで生活しなければいけなかった社会は、窮屈だったと思います。自分で選べない生まれ持った事で、自分を押しさえなければいけないのは、同和問題と同じだと思いました。

○中学校で担任をしていますが、時々「この生徒はもしかしたら・・・？」と思うような生徒がいます。そんな生徒に、どんな言葉をかけたらいいのか、迷う自分がいたのも事実です。今日は、そのヒントをもらったように思います。ありがとうございます。



講師の土肥いつきさん

○とてもテンポがいい話が聞けて良かったです。LGBTやトランスジェンダーという言葉は聞く機会があっただけで深く理解することは今までなかったもので、いい機会になりました。その話の中で地元の同級生が男性へ性転換したという話を他の友人から聞いたことを思い出しました(ちようど成人式のころに聞いた)。「うだよ。びっくりだよね。」と言われた時、そんなにびっくりしなかった自分がいました。いつき



き
た
め
に

さんのように、悩まれている人が身近におられるかもしれないという事をもっと頭において、接してあげられる人間、教師になりたいです。

○私はQ(クエスチョン)です。土肥さんが講演の中で「トランスジェンダーという言葉と出会い、バラバラだったパズルのピースがバチッとハマった」とおっしゃられていて、私もクエスチョンと出会った時、同じことを思ったなあと。クエスチョンは、ジェンダーセクシャルが定まらず迷っている過程として捉えられがちですが、私の読んだ本には、「定めない人」とも記載してありました。その瞬間、「定めなくても良い」「あえて選択しなくても良い」と自分自身のこれまで言語化できなかった考えを代弁してもらえた気分で、泣く程嬉しかったのを覚えています。

世の中、「生産性」がないと言われるたり、勝手に割り当てられた性別で減点されたり、なかなか辛いことばかり目に入ってきてますが、辛くてしんどくて悲しくて死にたくなっても、私は私として、どこかの場所で「いてくれてありがとう」を胸に生きていきます。ありがとうございました。教育委員会。佐同教の皆さまも、本日はありがとうございました。今日も私はクエスチョンな自分を誇りに佐賀で生き続けます。

○土肥さんの講演は、LGBTに関するものが大きな柱でしたが、その中に部落のことが在日朝鮮人のことをご自身の経験として話してくださいました。人権そのものを明るく楽しく身近な感じで話されとても有意義でした。LGBTという言葉についてはおおよそのことは知っているつもりでしたが、今日とても丁寧に話してくださいました。『自然は多様性を好む』のですから、『社会』もそうなるべきだと強く思いました。

○トランスジェンダーについて理解しなければと思いつながら、実際には目を向けようとしていなかった自分に気がつきました。夏休みの人権作文に取り上げていた生徒がいて、私の方が勉強不足だと反省したところでした。今日のお話は無理なく私の心を開いてくださいました。



○土肥先生の学校生活の中で出てきた『みのりさん』のお話に心打たれました。私の学校では性に関して軽率な発言をする生徒が残念ながらいます。もし今後、性や部落問題に関して悩みを持った生徒と直面したときに、その不安をやわらげられるようにしたいです。また、その生徒を支えていける学級を経営していきたいです。



各地区同研 夏期講座等の紹介

◎伊西地区同研 夏期講座 8月9日(木)

◆ 演題 LG B T Q の子ども達も

安心して通える学校へ
福岡での相談支援や学校現場との
連携から見えてきた現状と課題」
◆ 講師 石崎杏理さん (F R E N S 代表)

伊万里市民会館において、伊西地区人権・同和教育夏期講座を開催しました。講演は、福岡市内を中心に、セクシャルマイノリティーの子ども・若者支援を行ってられる、F R E N S 代表の石崎杏理さんにしていただききました。石崎さんは、これまで関わってきた子ども達の状況改善の取組等を話していただき、参加者からは、たくさんの感想をいただきました。



○石崎さんの思いがひしひしと伝わりました。石崎さんの中で辛かった経験も多かったですと思います。その話をされるのは、石崎さんの経験さ

れた辛さを子どもたちにさせたくない思いがあつてのことだと思えました。カミングアウトしてもしなくても、みんなにとつて過ごしやすい環境をつくっていくという考え方に強く共感しました。これが本当の人権意識だと思えます。

○性って何だろうとずっと思いながら聞いていました。私は女性と言われますが、女性の中でも男性的な部分があり、つまり性はグラデーションであり、二つに分けるものではないと改めて感じました。そして、「性」で見るとではなく、人を「人」として見るべきだと思えました。「多様な性」を学術的に知ることは難しいけど、「人」として見たら、「人」は多様であることが当たり前なので、私はすんなりと心の中にストンと落ちました。

◎佐賀市同教 夏期講座 8月13日(木)

佐賀市文化会館大ホール

酷暑の夏。非常に暑い中、二〇一八年度佐賀市人権・同和教育夏期講座を開催しました。この夏起こったさまざまなニュースを振り返りながら、身近な差別や人権問題を考える機会となりました。佐賀市同教が取り組んでいる三つの柱を中心として、子どもたちの未来のために、人権・同和教育に取り組むことの大切さを確認しました。

京都の崇仁地区より藤尾まさよさんをお迎えして「この町がすきだから」すべての人が自分らしく、輝いて生きるために」という講演をしていただきました。



自分が生活していく中で受けた差別体験を中心に、自分や部落の子どもたちの生き方や考え方をお話ししていただきました。「僕らがどんなにがんばってもあかん。どうせ社会は認めてくれへん」とある子どもが発した言葉がきっかけになり、学校のP T A 活動や崇仁地区の情報発信に力を入れるようになったというお話がありました。また教師が子どもや保護者に発する言葉は、差別から救うこともあれば、差別を助長することもあるということに気づかされ深く考えさせられました。

講演後のアンケートには、「無知であることが自分も周りも傷つける」という言葉が印象に残りました。聞いたことがある知識、知ってるつもりでの知識でわかったつもりになりがちですが、やはり正しく理解し勉強していくことが、人権意識を高めることにつながると思います。「愛情」という名の差別」という言葉を聞いて



「強い信念、熱意を感じました。誰にも相談できず、何時間も車を運転して赤ちゃんを預けに来るお母さんのギリギリの状態、遺棄か虐待か、生きるか死ぬかの赤ちゃんの様子など、壮絶な経験を話していただきました。維持費も膨大で、その

た時、初めはどういう意味だろうと思いましたが、愛情と愛護を思っている言動が他の人にとっては差別にもなるということにすぐく感じました。」
などの感想がありました。

◎三神地区人権同和教育 現地研修会

7月26日(木)、32名の参加を得て、熊本市の慈恵病院、益城町社会福祉協議会で現地研修会を行った。

慈恵病院での、こののりのゆりかご(赤ちゃんポスト)の見学では、母親に対する相談案内の看板や母親への手紙などがあり、預ける選択を思いとどまってほしいという病院の思いが見られました。その後、蓮田太二院長(理事長)からの講話があり、「ゆりかご」がつくられるまでの法律の壁との闘い、赤ちゃんの命を最優先に考えるという強い信念、熱意を感じました。誰にも相談できず、何時間も車を運転して赤ちゃんを預けに来るお母さんのギリギリの状態、遺棄か虐待か、生きるか死ぬかの赤ちゃんの様子など、壮絶な経験を話していただきました。維持費も膨大で、その

多くを病院が出費し、あとは寄付で賄っているとのことでした。設置から十一年たってもこのような施設が日本に一つしかなく、「子は親が育てるのが当然」という考え方があり、家族が孤立している。社会のみんなで受け入れていかなければいけない。」と話されました。講演後、参加者から「こののりのゆりかごのおかげで、たくさん命が救われています。命をつなぎ、守ろうとされている一生懸命な取組に感謝を受けました。」などの意見が多く出されました。
益城町では、社会福祉協議会の緒方さんに、地震後の実態を話していただきました。「復興支援に対する行政の在り方。ボランティアのありがたみ。ネットを利用した正確な情報の発信の大事さ。顔と顔の見える人とのつながりを作っていくことの大切さ。」などを力説されました。参加者からは、「町並みを見ていて復興が進んでいると思いましたが、話を聞いて、まだまだ頑張らなければならない」と思っていたが、自身も被災されていたが、住民に寄り添いながら、地域のため、地域



2019年度(来年度)の主な行事

行 事 名	日 時 ・ 場 所	参加・資料代
佐賀県人権・同和教育研究協議会 総会並びに研修会	5月17日(金) PM メートプラザ(予定)	無 料
佐賀県人権・同和教育研究大会 (全体会)	8月7日(水) PM 佐賀市文化会館	800円
佐賀県人権・同和教育研究大会 (分科会)	10月18日(金) 終日 鹿島・嬉野・藤津地区	1500円
佐賀県人権保育研究集会	10月20日(日) AM 場所未定	500円
実践交流会Ⅰ	11月26日(火) PM 場所未定	500円
実践交流会Ⅱ	1月24日(金) PM 場所未定	500円

最優先でやってこられたのがよく分かりました。」という感想がありました。
二か所とも有意義な研修となり、参加者の皆さんからも高い評価をいただいたが、長時間の移動・昼食時間の確保が課題としてのこりました。次年度もいい研修になるように計画したいと思います。